

会 議 録	
■会 議 名	令和 6 年度第 1 回神河町子ども・子育て会議
■日 時	令和 6 年 6 月 13 日(木)18 時 30 分～
■場 所	神河町役場 3 階第 3 会議室
■進 行	1 開会 2 あいさつ 3 委嘱状交付及び自己紹介 4 会長及び副会長の選任 5 協議事項 (1)第 3 期神河町子ども・子育て支援事業計画策定について ・第 3 期神河町子ども・子育て支援事業計画について(資料 1) ・子ども・子育て支援事業の見込み量について(資料 1-1) ・神河町子ども・子育てに関するアンケート調査【意見・要望】(資料 2) ・神河町子ども・子育てに関するアンケート調査【修正報告】(資料 2-2) ・第 3 期神河町子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール(資料 3) 6 その他 7 閉会
■協議内容	○開会挨拶（山名町長） 夏日が続いています。夕方の出にくい時間帯にもかかわらず、お集まりいただき、令和 6 年度第 1 回目の神河町子ども・子育て会議が開催されること、心から御礼申し上げます。 先週は、中学校 2 年生 70 名がトライやるウィークで町内事業所 26 か所でお世話になった。感謝申し上げたい。 6 月 8 日は神河町で初めての試みであった、春の幼小合同運動会を行った。近年の猛暑では、9 月の運動会は危険だということで神河町としても 6 月開催とした。新入園児、新入生にとっては、幼稚園・小学校によりやく慣れつつあるという中での運動会となった。子どもにとっても、保護者の皆様にとっても大変な中、当日天候に恵まれ、心地よい中での運動会ができた。子どもたちが一生懸命演技をする姿、来場している地域・保護者の方のあたたかい拍手、応援をしている中で元気をもらった。 4 月 25 日、新聞の第 1 面をにぎわせたのは、消滅可能性のある自治体は、全国で 744 あるということ。兵庫県は 41 市町のうち、13 市町が対象だと。その中に神河町も入っている。これは今回初めてではない。10 年前も国が地方創生事業に本腰を入れるきっかけになった時にも、報告があった。子どもの出生数が減っているその基となる出産適齢期となる女性の方々が 30 年後に 50%以上減少するところが消滅の危険性があるということだ。

神河町は、人口が減っても持続可能な町をいかに作るか、世代交代がしっかりできるように子育て環境整備を行ってきた。とはいいいながらも、人口減少は進んできた。国として、しっかりと総括をして、これからの10年20年30年後を見据えた根本的な改革を考えてもらいたい、地方創生の政策転換を要望していく。

今年も、いろいろなメニューを創設してきた。妊娠された時の『出産応援支援金』5万円、出産された時の『子育て応援給付金』5万円、第3子以降出産で出生時に10万円、6歳到達5万円、12歳到達10万円、という支援金。昨年から、『中学生の通学自転車購入補助』3万円、『小中学校入学子ども未来応援支援金』3万円、食べ盛り応援神河米児童1人あたり30キロお送りする。その他、学校給食の原材料費の値上がりはあるが、給食費の据え置きで町が1,200万円負担する。学校給食費を令和6年度限り半額補助の政策を展開する。

人口減少対策に力いっぱい頑張りたい。教育環境をさらに充実させたい。本会議で忌憚のないご意見をいただきたい。

5 協議事項

(1)第3期神河町子ども・子育て支援事業計画策定について

○事務局説明

会長 児童数推移ですが、信頼性に乏しい。トータルの数字は合っていると思うが。

事務局 コーホート法で計算すると、若干の違和感が出てくる。違和感のない自然な形で修正する。

会長 感想を。

委員 全体的に就学前の記述が多いと思った。PTAなど保護者に負荷をかけることは必要ないのではというご意見。コミュニティで子どもが育ちやすい環境を目指す中で、個別の意見と全体の方向は必ずしも一致しない。精査しながら見ていかないといけない。

委員 105ページの「みあいっ子」とは何か？

会長 自主保育活動。就学前の子どものお母さんたちの自主グループ。町内各地で活動。6人ぐらい。

副会長 教育委員会で把握できているか？

事務局 把握しています。

副会長 教育委員会としてはOKか？

事務局 自主グループなので。

副会長 連絡はあるのか。幼稚園との連携は？

事務局 自主グループなので連携には至っていない。

委員 自由記述を読んだ印象は、お母さんたちは、子育てに対する不安を相談をしたいのだなあと。自分を取り巻く環境で不安を抱えている印象を受けた。幼稚園として運営する中でいい材料をいただいた。いろんなと

	ころとつながりたい思いがあるのだと思った。 会長 国が共働きを推奨している。仕事と家庭の両立、仕事に復帰するときの不安が大きい。情報提供が必要。 委員 104 ページに固有名詞があるのでご心配をおかけしている。年度末に保育士の退職が重なったが新規採用し、法律で定められている配置基準は満たしている。待機していただいているので今後も採用を頑張っていきたい。 会長 神河町は待機児童はいるのか？ 事務局 国の基準ではゼロ。途中申し込みで待っている人は何人かいる。 会長 隠れ待機児童はいると。満たされて良かったと思う。 委員 アンケート調査に回答した。一番思ったのは遊び場がないこと。私が子どもころは、勝手に遊びに行っていたが、今は友達の家に行くので、迷惑をかけないように、毎回相手の親に確認する。遊び場があれば集合できる。 会長 地区は？ 会長 柏尾。きらきら館に遊びに行きたいと言われても送迎できない。近くに公園とかがあれば。 事務局 今年度、旧栗賀小跡地に公園と図書室ができる。子ども一人ではどうかと思うが。場所として増えるのは確か。今、施設の名称を募集している最中。 会長 子ども同士で約束して遊ぶのは難しいかもしれない。親が付き合っていないと子ども同士も付き合えないのではないかな。 委員 今のお母さんたちも子どもころはできていた。遊びに行けなくなったのは、最近のことなんだなと思った。 会長 固定電話がなくなったことが原因ではないか。母親に頼まないといけない。 会長 固定電話がない家が多い。ありますか？ 委員 ないです。スマホは家の中の Wifi だけつながる。 会長 子どもは Line はしていますか？ 委員 家の中でしかできない。家族や親戚だけ。友達とはできない。 会長 そのハードルはいつ越えると思うか？ 委員 番号も持っていない。自分で持つようになってからだと思う。 委員 要望があり、椅子を購入した。アンケートで身長、体重計を置いてほしいという意見があったので購入の予定。 事務局 フードバンクをしている。経済的な支援や相談支援かなと思う。 事務局 経済的な支援、まだまだ必要な方がいる。制度的なことを知らない人もいる。 コンサル 預かり、経済的支援、遊び場など他市と同様の傾向。
--	--

会長	タクシー会社と契約して送迎した方を知っている。同じ制度があったら面白いと思った。どうやって共働きを乗り切ったかという体験に施策のヒントがあるのではないかと。自分は専業主婦だったが。サービスは欲しいと思った時に使えたら嬉しい。利用者が一人二人でも。
事務局	相談する場がないとあるが、持っている資源を使えば行政が対応できる部分。親が子どもと離れる時間が欲しいというが、誰でも通園制度ができる。使える場所を増やす。次の 5 年でこうなったらいいなというのが盛り込めればと検討している。
副会長	核家族になりすぎてないかと思う。おじいさんおばあさんをうまく使えると思う。町長に三世代同居に補助金と言った。子どもが帰って家に誰かがいると安心できる。
事務局	幼稚園小学校のお迎えはおじいちゃん、おばあちゃんが多い。お手伝いしてもらっている家庭が多いと思う。
副会長	ファミリーサポートセンターをもっと PR してはどうか。知らない人も多いのではないかと。
事務局	ファミサポは、ハードルが高くて利用が止まっている。弾力化する検討をしている。1 時間 800 円は高い。もう少し利用しやすくと考えている。誰でも通園制度は 1 時間 300 円。
会長	神河町は親の近くに住んでいる人が多い。病児保育について告知したら反応があった。朝申し込んで利用は 10 時半からだったので、もう少し早くできればと。おばあちゃんに聞いたら、学童に預ける感覚で抵抗はなかったと。いざという時に使える制度がいい。第三期計画の目玉は、誰でも通園制度ですか？
事務局	国の制度のままでいいのか、いつでも相談できる体制も早くしないといけない。やっているようで意外とできていない。
副会長	相談を受ける人が常駐するのは大変では。
事務局	今ある機関をもっと機能させる。児童センターは評価が高いのもう一步。
副会長	給与を増やしてあげてください。
会長	コロナで失ったものが 3 つと言われている。家庭以外の居場所、家族以外のつながり、子どもとして過ごす時間。つながりをつくるのが難しい時代なので、保護者のつながりの場がほしい。高校の PTA の研修もきっかけになった。集まる方法を探してほしい。今日出た意見をもとにして計画を作してほしい。
・神河町子ども・子育てに関するアンケート調査【修正報告】について ○事務局説明 ・第 3 期神河町子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて ○事務局説明	

	6 その他 ○閉会挨拶（入江教育長） 遅くまで、ありがとうございます。子育てという言葉を知ると、胸が痛くなる。私には子育てした記憶がありません。なぜできたかという、家内の力が大きい、おじいちゃんおばあちゃん、近所の方みんなに育てていただいたと感じる。 皆様の意見を事業に反映させて、子育て支援の充実を図りたいと思う。 トライやるウィークで、長谷幼稚園の様子を見に行った。雷の遊びをしていた。中学生と一緒に遊んでほのぼのしていた。給食センターにも行った。「何が一番大変だったか」聞くと、「下ごしらえが一番大変だった」と答えていた。子育ての原点である食べることに触れられた中学生は、幸せだったと思う。 この計画策定にあたり、みんなで子育てにかかわることが大切だと思った。今年度は、あと2回会議があるが、よろしくお願いいたします。
--	--